

シカゴ地区のトルネード*

土 屋 清**

去る1967年4月21日シカゴ地区を襲ったトルネードは、災害規模では、1876年以来の記録中でも最大のものであった。シカゴ周辺の地区での死者総数は54、負傷者数1,100人以上、家屋の破損数は1200棟以上、被害総額は、50,000,000ドル以上になった。

特に死者54人というのは、これまでの記録、1920年3月28日の死者28、負傷者300人をはるかに突破している。

アメリカ中西部がトルネードの多発地帯であることは、日本でも良く知られているが、被害をおよぼすようなものはシカゴ地区ではそんなには多くないようである。例えば過去5年間のシカゴ地区で被害を伴ったトルネードは第一表のとおりである。ここで1964年は、筆者自身10月までシカゴにいて、トルネードをレーダで見た記憶があるが、記録には載っていないので除外した。

4月21日のトルネード警報

アメリカ中西部の子報屋の最も気を使うのはトルネー

第一表 最近5年間にシカゴ地区で観測されたトルネードと被害

年	月	日	人的被害 (人)		被害額* (ドル)
			死	負傷	
1962	6	23		18	1,000,000
1963	4	17	1	70	1,000,000~10,000,000
〃	〃	19			500,000
1965	6	8			軽微
〃	〃	23			500~5,000
〃	8	26			500,000~5,000,000
〃	11	12	3**	100**	5,000,000~50,000,000**
1966	4	19			200,000
〃	6	9	1	30	5,000,000
〃	7	9			500
〃	〃	13			5,000~50,000
〃	12	8			5,000~50,000

註 * 被害額の見積りは人によってかなりの幅があり、最小と最大では、一桁違うのが普通。

** この日は、1日に4個のトルネードがあった。

これは4個の被害額の合計

* Tornadoes in chicago area

** Tsuchiya, K.: 気象庁予報部

ド警報である。幸にも今年の4月21日のトルネード来襲に際してシカゴ気象台のとった処置は、かなり適切であった。すでに13時50分につきのような注意を出した。

シカゴ気象台の出したトルネード注意報

Tornado watch bulletin number 100. Issued 1350 CST Apr 21 1967. The weather bureau has issued a tornado watch for. Most of northern and central Illinois, extreme southeast Wisconsin northwestern Indiana and a portion of extreme eastern Iowa.

The threat of a few tornadoes will exist in these areas from 2 pm until 8 pm CST this Friday afternoon. A few severe thunderstorms with large hail and locally damaging winds are also forecast.

The greatest threat of tornadoes and severe thunderstorms is in an area along and 60 miles either side of a line from 40 miles northeast of Quincy Illinois to 30 miles northeast of Chicago Illinois. This includes Chicago area. Persons in or close to the tornado watch area are advised to be on the watch for local weather developments and for later weather statements and warnings.

この注意報が出た後、気象台のレーダーで、14時15分に強い線状の雷雨性のエコーがウィスコンシン州やミズリー州からイリノイ州に移動して来るのをつかまえ、15時40分には、トルネードを見たという報告を受けとり始めた。勿論その前にトルネード警報は出してあった。

トルネード警報の組織は、非常によく整備されていて、各レーダー基地の連絡も良く、何よりも驚かされるのは一般の気象局への協力である。どこかで、誰かがトルネードを見つげるとすぐに気象局に知らせてくれ、事後調査に役立つ被害写真でも非常に沢山撮影して関係の所へ送ってくれる。

筆者もシカゴにいた時、隣りが気象台で、同級生が予報官をしていた関係で、トルネード警報発表前後に、予報現場にいたこともあるが、日本で「台風は、あと数時間で伊豆半島をかすめて東京に接近する見込。」という台風情報を発表した時のように、一種言うに言われぬ緊張感が張りつめていた。トルネードの方が短時間の勝負で、かつスケールが小さいので予報担当者の苦勞は、台風予報官以上のものようである。